

令和2事業年度

決算報告書

第17期

自：令和2年4月 1日

至：令和3年3月31日

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

令和2年度 決算報告書

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学

(単位:百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	6,323	6,240	△ 83	(注1)
うち補正予算による追加	—	3	3	
施設整備費補助金	180	178	△ 2	
補助金等収入	458	457	△0	
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	30	30	—	
自己収入	737	653	△ 83	
授業料、入学料及び検定料収入	530	513	△ 16	
財産処分収入	88	—	△ 88	(注2)
雑収入	117	140	22	(注3)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,630	1,780	150	(注4)
目的積立金取崩	551	600	48	(注5)
計	9,912	9,941	28	
支出				
業務費	7,069	6,425	△ 644	
教育研究経費	7,069	6,425	△ 644	(注6)
施設整備費	210	208	△ 2	
うち排水処理設備のライフライン再生	101	101	—	
うち給排水設備のライフライン再生	39	38	△0	
うち長寿命化促進事業	39	37	△ 2	
補助金等	458	457	△0	
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,630	1,532	△ 98	(注7)
長期借入金償還金	543	543	△0	
計	9,912	9,167	△ 745	
収入-支出	—	774	774	

○予算と決算の差異について

(注1) 運営費交付金については、予算段階では予定していなかった補正予算（授業料免除）が3百万円、特殊要因経費（退職手当及び年俸制導入促進費）が18百万円交付されたこと、また運営費交付金に計上した債務繰越分が予算段階の金額よりも106百万円少額であったことにより、予算金額に比して決算金額が83百万円少額となっております。

(注2) 財産処分収入については、前年度以前における繰越額の支出計画の変更等により、予算額に比して決算額が88百万円少額となっております。

(注3) 雑収入については、主として学術指導収入及び職員宿舍貸付料収入の増加等が要因となり、予算金額に比して決算金額が22百万円多額となっております。

(注4) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、主として共同研究等の受入額の増加等が要因となり、予算金額に比して決算金額が150百万円多額となっております。なお、決算金額については前期からの繰越金123百万円を含んでおります。

(注5) 目的積立金取崩については、予算段階では予定していなかった取崩事業が発生したことにより、予算金額に比して決算金額が48百万円多額となっております。

(注6) 教育研究経費については、主として経費の節減により、予算金額に比して決算金額が644百万円少額となっております。

(注7) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、受託研究費等の支出が予算段階での計画額を下回ったことが主たる要因となり、予算金額に比して決算金額が98百万円少額となっております。